

ベネズエラ・ボリバル共和国

エリアス・ハウア・ミラノ外務大臣による発言

国際連合人権理事会委員長および委員の皆様、人権理事会の正会員およびオブザーバーの皆様、事務局職員の皆様、ご列席の皆様、ベネズエラ国民およびニコラス・マドゥーロ・モロス大統領より、心からご挨拶を申し上げます。

ベネズエラ・ボリバル共和国は、本理事会に選ばれて2回目の会議への参加となります。私たちは、透明性を維持しながら建設的な方法で国家同士が協力するために創設されたことに鑑み、人権理事会の枠組みを支援して参りました。

この意味で、ベネズエラは委員会見直しのワーキンググループの討議に貢献しており、私たちの立場は、非同盟諸国が行っている運動が掲げるビジョンと同じです。ベネズエラは、2015年後半から、卓越した方法で、また責任を持ってその運動を進める予定です。

人権理事会の定期的レビューを実施してきたことに満足を感じていることをお伝えします。これは国連加盟193ヶ国の人権に関する状況のレビューを含む固有のプロセスであり、人権に関する状況を改善するため、またその問題における義務を果たし、取り組んできた課題について伝える機会を各国に与えてくださいました。

現在、ベネズエラ政府は2011年10月のレビューを提示した際に約束した事柄を実現しようと取り組んでおり、これは、推奨を受けてベネズエラが承諾した事柄すべてを100%実現して2016年の第2回目のプレゼンテーションに臨むことを目指すもので、私たちは各条約機関に提出する情報を準備しているところです。

ベネズエラは、国際平和を損なうような国連憲章の基本原則を侵害し、また国民同士の理解を妨げ、人権を真の性質とはかけ離れた目的のために、また、特に一部の大国が政治的利益を推進するための道具として使用することを、断固として拒否すると繰り返すことは時宜を得たことといえます。

委員長、ベネズエラは、国際フォーラムにおいて、実績と課題を披露することには慣れていません。このような場においては、人権、民主主義、世界平和を目的とした多元的アジェンダを優先することが重要だと考えるからです。

しかしながら、混乱し、内戦状況にある祖国に対する嘘やごまかしの国際キャンペーンが行われている現在、平和の権利および自由な国民のもつ尊厳の名において話さざるをえません。

わが国は、ユネスコが証明したとおり、識字率の問題は克服しております。2013年に国連食糧農業機関（FAO）が認めたとおり、餓死する心配もありません。すべての国民は、公教育を無償で受けることができ、インターネットアクセスの可能なコンピュータを持っています。それについては、昨年ユネスコから表彰されました。美しい文化的伝統をもった国民であり、2012年と2013年には、無形文化遺産としてベネズエラの文化行事が2件、登録されました。

委員長、わが国民は、15年間にわたる民主的な革命において、19の選挙を実施してきました（大統領選挙、地方選挙、議会選挙、国民投票、取り消し選挙、賛成選挙）。それら19の選挙プロセスのうち18件において、ボリバリアーナ革命の民主プロジェクトが勝利を収めました。

10年で、一般的な貧困は25%減少し、貧困は人口のわずか5%に減りました。国連のデータによれば、ベネズエラは、21世紀に最も不平等を減らした国です。それによって、ジニ係数を基準に、ラテンアメリカ・カリブ地域で最も不平等の少ない国民となりました。

委員長、委員の皆様、最新の若者に関する国家調査では、今日のベネズエラの多くの若者像が記録されています。15~29歳の青少年10000人の個人面談を通して、以下のことがわかりました。

- 60%は、社会主義が最高のシステムだと主張し、資本主義を選んだのは21%でした。
- 77%は、国内にとどまることを検討しており、国外に出たいと答えたのはわずか13%でした。
- 90%は、自分の学問が「より多くの機会」を与えてくれると考えています。
- 93%は、よりよい職に就けると考えていました。

ご覧の通り、わが国において、若者たちの大半が民主社会主義モデルに反対するというのは事実とは異なります。

ベネズエラ国民がその民主主義について多数派が支持する、ラテン・バロメーターの2013年の報告書では、「ベネズエラは、国民の主張と国際コミュニティがその民主主義について主張する事柄の間には大きなずれがある国として、論争の的となっている」と言われています。

つまり、間違いなく、わが国に対する組織的な心理戦を仕掛けるために、国内外の有力メディア企業が使われているということです。ベネズエラからネガティブなニュースが広まっています。

一国の非常に有力なコミュニケーション企業や、国家間の垣根を越えたその種の民間企業によるプロパガンダや宣伝活動は、独立国家に対して人権を武器に処罰を行う政府スポークスマンに補強される形で、わが国には混乱が広がり、国民に対して当局が無差別に並外れた抑圧を行っていると思わせようとしています。そうして、国内問題への外国からの介入を正当化し、不当な処罰と制裁を行おうというのです。

平和に行われているデモに対する残虐な抑圧があると繰り返し言われています。平和に行われるデモとは、「通常は野外で開かれる公開の集会で、出席者が何かを訴えたり、抗議を表明したりするもの」だということを明確にする必要があります。

ボリバリアーナ革命のためには、平和な抗議は国民の直接参加が必要で、それゆえ多元性が必要であり、民主的政治システムに存在してしかるべき意見の相違を促進し、保証するのです。

しかし、デモの権利は絶対的なものではありません。平和裏に、武器をもたずに行うというのが条件です。

ベネズエラ国民は、先月、人権を侵害する国家として続けざまに包囲され、私たちの平和の伝統と資質を根こそぎにしようと、絶え間ない包囲が行われました。デモの正当な権利の名の下に訓練を受けた集団が、労働、教育、食料品の購入、医療機関への病人の搬送の権利を行使するための自由な通行を妨害して公道を暴力行為によって封鎖しました。これらの人々は食料品を運ぶ自動車に放火し、公的機関の事務所を破壊し、救急車を襲い、大勢の乗客が乗った交通機関とその利用者を襲い、電力、電話、治安といった重要な公共サービスを提供する施設で車両を破壊しました。こうした集団は、外国人排斥、社会的・人種的な不寛容さをアピールしてきました。

このため、均整の取れた特別な基準をもつ警察力によりそうした事柄を阻止する訓練を受けた合法的な当局が、行動を起こしました。多くの場合、平和に生きたいと願う大半の人々の利益を守るために秩序を再構築するという国家の責任と正当な権利を侮辱し否定する目的で、銃器により当局は攻撃されました。治安当局およびボリバリアーナ国軍の職員 51 人がけがをし、様々なタイプの武器で攻撃されました。その中には、ボリバリアーナ国家警察のジョバンニ・パントハ巡査部長がいます。彼は、ある地域で自由な通行を回復しようと取り組んでいるさなかに、武装集団に待ち伏せされ、先週の金曜殉死しました。

委員長、今までに起きたこれらの暴力的な事件の重大さとその影響を明確にする必要があります。そうした事件は、国土を構成する 335 の自治体のうち 18 の自治体において、上層中流階級が住む都市部で起きています。死者は 18 人で、そのうち 3 件のみが警察官による違法行為の結果とみられ、司法裁判所が逮捕命令を出しました。逮捕者は 73 人のみで、暴行罪、公共財の破壊、殺人の嫌疑で逮捕されました。すべて、裁判所の命令に基づき、しかるべき手続きが保証されています。

国際社会は、このような民主主義に対する攻撃の性質は、イデオロギー上の政治的性質のものであり、その目的は、合法的に成立した政府を打倒することだと認識すべきです。それは、これまでにも、その主な指導者たちゆえに、ボリバリアーナ革命に傾倒している民衆に対する激しい社会的嫌悪によって表明されてきました。こうした攻撃は元々、社会への不満がきっかけとなったわけではありません。指導者たちは、2002 年、2004 年、2013 年に民主的枠組みへの攻撃を主導したのと同じ人々です。つまり、革命の一端である各選挙での勝利後に起きた攻撃がそれにあたります。選挙戦での勝利とは、たとえば去る 12 月の選挙では、与党が地方の首長の 75% を占め、全国で得票率 56% を獲得しているのです。市民の安全や生産的な経済発展など、あらゆる社会に問題および取り組むべき課題があるように、ベネズエラではニコラス・マドゥーロ大統領は、排除をよしとせず、根気よく対話を進めてきました。憲法および法制度の枠組みの中で、幅広く包括的な対話を軸として平和を推進しているのです。

そのために、全国の全てのセクターを平和のための国民会議に参加するよう招待しまし

た。その呼びかけは、すべての宗教団体、企業家、イデオロギーの異なる政治家、知識人、アーティスト、労働者、そして平和を愛し、民主主義に生きたいと願う非常に多くの国民によって、承認され受け入れられました。平和の価値は、暴力のスティグマに勝ると確信しています。真実は嘘に勝利します。友愛は嫌悪に勝利します。

最後に、委員長、そして世界の政府代表の皆様、私たちは世界人権宣言や、メルコスール（南米南部共同市場）の人権推進・保護のコミットメントに関するアスンシオン条約を遵守し、ウナスール（南米諸国連合）条約の民主主義へのコミットメントに関する追加議定書、および我が共和国が有効と認めるその他の文書を遵守する意志を追認します。

この人権理事会および該当機関が求めるすべての必要条件に対応する準備はできています。しかし、政府や国際機関による評価や圧力、あるいは一方的な処罰については従う義務はなく、受け入れません。

ベネズエラは、100年以上、内戦を経験していません。他国と交戦した唯一の戦争は、わが国の独立を勝ち取るために200年以上前に戦ったものです。

国際社会に対し、私たち国民が獲得した平和と平等を守るために、民主的なベネズエラ国家の取り組みを支援して下さるようお願いいたします。

2012年12月8日、ウゴ・チャベス司令官は、2013年3月5日に死去する約3ヶ月前に、国民に向けた最後のメッセージで、こう述べました。「どんな状況でも、私たちは必ずボリバリアーナ革命を進歩させなければならない。この革命の勝利の歩みは、憲法制定において国民が命令するという新しい民主主義を構築しながら、幅広い人々が参加し、人々が幅広い自由を享受し、完全な自由を享受するために、社会主義へのベネズエラらしい道を築きながら進めるものだ。」それがマドゥーロ政権の約束であり、ベネズエラ国民が平和に生きる権利を守るのが私たちの義務なのです。

どうもありがとうございます。